



百人一首

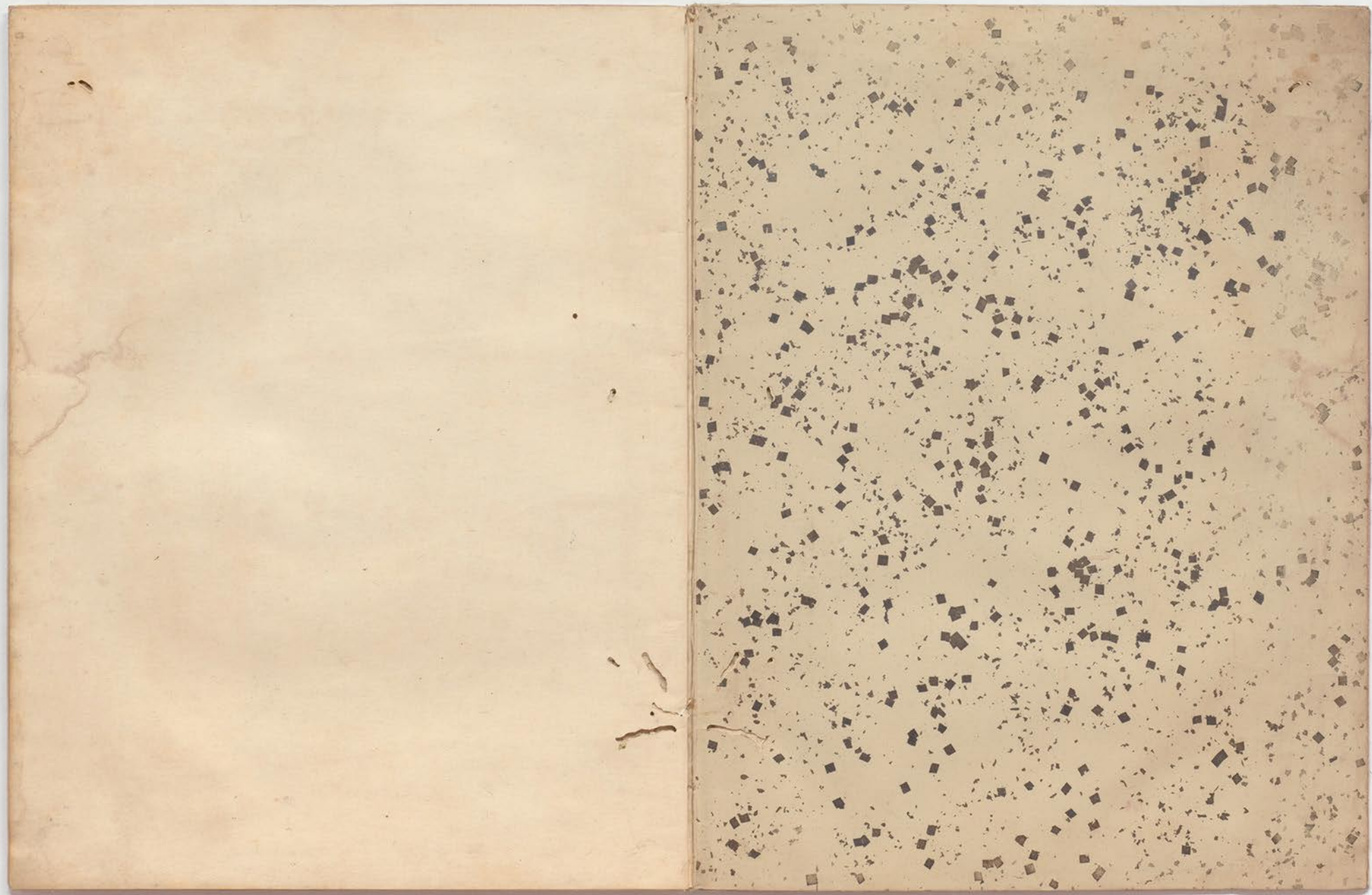


參議右中將有言筆

百人一首

夜





小倉山莊障子和歌

天智天皇

秋の田たうり種のか庵の管絃のうら
りこの秋も手のか萩のゆきさう

持統天皇

春のふさふさ葛衣のたけし
こゝもほろろとておろろやう

柿本人丸



河東の山より尾の志よりたの
長~~~~~とていふなりかも神也

山邊赤人

田舎乃うには歩いそとこれいふ妙の
ふ二心多うの神も音い降つ

猿丸大夫

朽く山にお景遊もをわく~~~~~
おき~~~~~時と秋いふ

中納言家持

か~~~~~神の皆留とくに無難乃
志の長た~~~~~おもう安ん

安倍仲丸

と~~~~~やきけとれい喜のたあ
あ~~~~~山と山~~~~~月と母

喜撰法師

我~~~~~朝のきつ~~~~~
~~~~~

よびたりあゆと人いづれなり

小野小町

若のつらいつらも里々重りね以は津二  
りの身よたひかゝる跡きしきん

輝丸

是やこね由くもかふる也初のみこころ  
ききししなれもあはれの関

参議澄

和田のこころ半場まききききききき  
きききききききききききききききき

僧正遍昭

まはれをこころのこころいふたゆきこはよ  
はらあはれかきききききききききき

陽成院

筑波根の輝よりなれりねねの河  
なをはれをりて関と成りなる



河原左大臣

みちのくれ思ふまゝ素より誰の事  
うれりめおし我ありわし

光孝天皇

君の早あまの思ふまゝ生くはなれし  
わのそよこおしむるは

中納言行平

まゝまじつねをわしの望みおし  
おし

松しきかゝ今の魚うらむ

在原業平朝臣

千早振神代もきかたは多し  
うれりめおし

藤原敏行朝臣

住の江りさうに波分敷さへ  
由のたうらむおし

伊勢

雞啼うとうかき何なる物なるも  
何とて此の世をうらむ

元良親王

初い好まぬ今も同く雞啼ねる  
うらむうらむ何ぞん我を思ふ

素性法師

今も世をうらむかうに奈の月乃  
有明のうらむ待をうらむ

文屋康秀

次うらむに秋の草木おしほも  
世へうらむ勢をうらむ

大江千里

月をうらむにをれをか物に  
わらぬにうらむの秋をうらむ

菅家

此の世の好まぬもあはれをうらむ



まゝの糸も神の湯也

三條右大臣

名も〜 おも〜 お坂山の佐藤か〜

あ〜も志〜ま〜ま〜る〜も〜

貞信公

小々〜山と橋のあま〜う〜只何〜と

〜ま〜ひ〜か〜の〜舟〜音〜ま〜る〜南

中納言兼捕

〜か〜の〜ま〜〜わ〜き〜く〜ね〜あ〜〜つ〜こ〜う〜け

〜は〜津〜み〜ら〜〜し〜も〜か〜あ〜〜ま〜〜る〜ん

源宗千朝臣

山〜里〜の〜糸〜も〜は〜あ〜〜ま〜〜る〜り〜平〜も〜あ

〜り〜も〜も〜ま〜も〜枝〜ね〜も〜お〜し〜り〜

九河内躬恒

あ〜れ〜あ〜〜に〜お〜も〜ま〜ね〜む〜初〜〜の

〜花〜も〜〜と〜も〜せ〜ら〜ら〜白〜菊〜の〜花

壬生忠岑

有明の清き物さるる別達より  
何の心もこかりうも物の物

坂上是則

物ほけ有明の清き見為満る  
より里の物さるる志る音

春道列樹

山河の風のけさるる  
物さるる河邊ぬれさるる

紀友則

久しき光のさるるけさるる  
しりうさるる花の散るる

後原真風

誰か志るる人さるる多さるる  
まのむすの友さるる

紀貫之



人の御佐へ移りし程に物々仕と  
も相苦むるに相寄りに月いある

清原深養父

夏のよる月を看たりと河斗好む  
冬夜乃つらと月やとらと舞

文彦新康

志々露亦風水吹く久秋の晴  
津らぬまよふぬ玉を敬守る

右 道

忘るる事方思ふ事好む事  
いと相命乃おとせとあま

泰謙等

浅茅生のをみ志の原思ふ事と  
河舟りとも相お人の恋

平兼盛

思ふ事とつとに出り守り初つらいと

物やねをふと人の世へさす

壬生忠見

志すそ我名はまゝ我多しふ事  
あしれす我思ひ物か

法原之輔

繁りもねうらにさくは志月のは  
正清の法山波に河とさく

権中納言兼忠

香るるの流ありそはまゝ  
まういそねをおもひなり

中納言相忠

阿ふそあふえそねは中へ  
人取もあをを恨う海

謙徳公

阿ふれまふふふ人かねは月を  
身の心へにねぬか物



曾祿好忠

哲良のよびわける船人赤ら顔多え  
外清もいぬ志のよむ哉

惠慶法師

八重葎しあまの屋との淋しきに  
印とて世をえぬ秋が来たり

源重之

の勢はつてさるる波のまをりまのこ

とくけく物は思ふに海はね

大中臣能宣朝臣

沖垣書清士の多くは是を留にまをえ  
印の消つて物はなむね

藤原義孝

君の平まおかたりり  
ねうもかねと思ひ守るま

藤原實方朝臣

かゝる多にえぬいづきお佐とく  
うともきりし物為ぬ思ひ

後原道信朝臣

ぬぬまいくう物いしし李物う  
物うくえしき物わくきか物

右大物道綱母

新きう運り物をおけ何くあまを  
つり久く物をかり留

儀同三司母

忘れくの物をかりあまを  
守ふ長け乃命やもうね

大納言公任

流の糸いきをくく久く物をかり  
たまをあらわしをねまえんれ

和泉式部

何れもあらわしの物をかりあまを



つらねと多し乃ち多きをわね

紫式部

免多う阿いこもや多きこと初め

云かひしや 常事の月づね

大貳三位

有馬山づねのきけはうき物けを

うきよき物け忘やうにる

赤深清門

屋にうき物なまき物を少夜物けを

かきや海もの月けうかね

小式部内侍

大江山づねのきけ乃ち少夜物けを

まき物なまき物阿のたう立

伊勢大輔

山へのねきけなまきの八重はくを

なまき物なまき物白のねきけを

清沙・納言

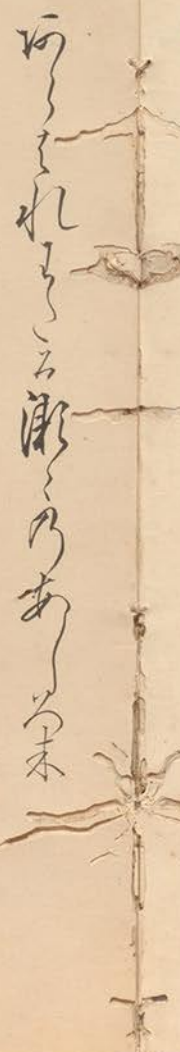
相成りありて為りて福はけり思ふも  
とにあふけりの雲はわさう

左京大夫道雅

今いそし思ひそそえなむ少きけり  
ひはけりありていづもかき

權中納言宣教

朝日あやうけのうき霧多きなり



河にれりて漸くありて末

相摸

宗の美といふてぬき多きありて  
念ふとあけりて名をけりて

大僧正行尊

流石もや阿をれとわたりて厚く  
たねよりわたりて名もあ

周防内侍



妻のまはるははうり奈と申ひきく  
う心ねく多し人各もがれ

三條院

う海もあゝゝ浮世もねくゝ  
恋もかゝるも長年かたき武

能因法師

阿ゝゝかゝるゝ富のやり業紅葉も  
そゝゝののりあゝゝきねりり



良暹法師

淋しはがねはそゝゝあゝゝせれい  
以つゝも同ゝゝ穉のゆゝゝ

大納言経信

夕されかゝ田のいゝをて世もははき  
阿ゝゝねもろやも秋をそゝ物

祐子内親王家紀伊

音もきゝゝ多つゝ北濱のあゝねみ

一帯一やまの如きも一帯す

権中納言匡房

高砂乃屋之所より一佐美あり

一やこれより一多江も阿も南

源俊朝朝臣

室のりなるを錢初瀬の山なり

はなにかきとい新の奴物を

藤原基俊

繁り無き一帯もかほり命あり

あまれ一帯の秋もつぬり

法性寺入道前関白大臣

和田のよき清く一帯もいりて一帯

一帯も井も一帯も一帯も一帯

宗徳院

瀬原もや一帯も勢あり一帯も長川

わきも一帯も一帯も一帯も一帯



源兼昌

河上之魚のうらふ子也なり此物く其之  
いよ稱ふぬ漁師の字

左京大夫頭補

秋風をそねむく言は多え台より  
まれのつら月の影のまけき

待賢門院堀川

物つふ花うらも志すきふ後乃

そ運ふと物とをそそ

後述古右大臣

郭公物さつらうそそ

そそ有ぬ若月うれそ

道因法師

控をいふもさてもめらる有そ物を  
うそ多えぬ漁師なり

皇太后宮女後集

世の中を道とて物なき世をいふ  
やそれたれども花を鳴物と

後原清輔朝臣

物なき世をいふ世ありや  
うらやまうらやま今なき世

俊恵法師

世も来うる物おもしろい  
物なり留る清き世なり

西行法師

物なき世も月やいそがし  
かきあふ月あはれは後赤邦

寂蓮法師

世も雨の清も濁る世も  
霧多れば世も世も乃々

皇赤門院別当

難波江のあはれかり祿の世も



身はつゝもや恋うゝ留き

式子内親

玉の結よ多えねいそくえね奈りゝる魚の  
志はふとこのをけりめをすま

殷富門院大輔

見勢をやなげゝまれば魚の袖ももも  
ぬきもるぬりゝ色にかゝるは

後京極攝政前大臣

菫奈くゝゝをを好まむゝゝ後  
こもかゝ志き物もねむ

二條院攝政

初ら袖いゝ月ひかゝるぬ沖のゝゝ乃  
冠とゝる志ゝゝ祿かゝゝ満もねゝ

鎌倉右大臣

世中の中帯にもかき奈ねさけあゝ  
あ方乃小船の浮なてか奈ゝゝ

參議雅經

之白く聖の厚方れ秋を佐よゆきて  
好里さむく衣う侍あり

前大僧正慈範

木月半好くも世の良女おゆふる  
翁く川松女にほ深なる

入道前大臣大信

花さき河の夜荒る水

物ゆき然我身なり

權中納言定家

おぬ人様まの木の深由へ奈さ  
厚くやも一月のまふを

從二位家隆

お勢あやむ形乃小川乃中  
海嶽とあつそんま

後鳥羽院



世とまおし今世の〜阿らき物  
世におもふ物思ふも

順徳院

百敷や物多し新瑞景志はくも  
形はあまうり阿ふ

却〜成書



各議京將有言

書く

跡見学園女子大学短期大学部図書館  
TEL 031-394311968



1001845443

跡見学園女子大学  
短期大学部図書館



1001845443





